

# 『第52回中野地区大運動会』 日頃の交流を重ねて 誰もが住みやすい地域へ



▲和気あいあいとした雰囲気の中で行われた「第52回中野地区大運動会」。けやきの村からは、34名の利用者が地域との交流を楽しみに参加しました

取材協力  
中野地区体育協会  
福島市立中野小学校  
社会福祉法人けやきの村



## 地域の運動会を通じて 顔の見える関係を育む

2022年10月に福島市飯坂町中野で「第52回中野地区大運動会」が、コロナ禍での中止を経て3年ぶりに行われました。この運動会では中野地区体育協会・福島市立中野小学校・社会福祉法人けやきの村（以下…けやきの村）による共同開催で、地域に暮らす方々がみんな参加しています。

けやきの村は、障がいのある方や高齢の方にサービスを提供する施設を中野地区で複数運営しています。運動会へは2015年から加わりました。理事長の舟山信悟ふなやましんごさんは「障がいを持つ方々を理解してもらえたらと、かねてより運動会への参加を希望していました」と話します。「実現できたのは、地域のみなさんの理解とつながりのおかげだと感じています。これまで地域の方々に施設の行事や学習センターでの健康教室へ来ていただいたり、防災訓練などにご協力いただいたりしています。障害者支援施設とあわ

せて、高齢者介護サービスも展開したことで、地域とつながる機会が増えました」。

当日は小学生とその保護者の方々、けやきの村の利用者、職員、地域に住む方々、約150名が参加。小学校競技や個人競技、車いすでも安全な「パン取り競争」「ボール運び競争」などが行われました。感染対策のため規模を縮小しての開催となりましたが、以前は豚汁の振る舞いや対抗競技でも交流を図っていたそうです。

「中野地区で最も人が集まるこの運動会を、みんなが楽しくできればと思っています」



▲社会福祉法人けやきの村理事長の舟山信悟さん（左）  
同じく自治会会長の半澤守さん（右）



▲中野地区体育協会会長の佐藤豊さん（左）  
福島市立中野小学校校長の佐藤友子さん（右）

す」と話すのは、中野地区体育協会会長の佐藤豊さんで

す。「夏から打ち合わせを重ね準備をするので、人々の親睦が深まります。備品や設営についても、けやきの村さんが協力してくださり、助かっています。何年も開催しているので、顔見知りになっている利用者さんもあります」とも。

### あたたかなつながりが地域づくりを支える

福島市立中野小学校は児童数が減少したことから、今年度で149年の歴史を閉じます。佐藤友子校長は「閉校す

る最後の年に、地区のみならずと作り上げるこの運動会に、ご一緒させていただいてありがたく思っています。けやきの村さんとは、運動会だけでなく鼓笛パレードでも交流があります。中野小学校では、利用者のみなさんとの関わりは特別なことではなく、運動会も一緒に行うのが自然なことです」と話します。

となり、私たちが取り組める競技が4種目が増えて、感無量です。最近はコロナ禍でなかなか難しいのですが、地区のみなさんとは挨拶を交わしたり、行事を一緒に楽しんだり、常に優しさに触れさせていただいています。施設には言葉をなかなか発することができない方もいらつしやるので、交流を重ねて気持ちを理解してもらえようになれ

ばと思っています」。

今後の運動会も、中野地区体育協会とけやきの村が協力し合い、盛り上げていきたいとのこと。小学校は閉校となりますが、中野地区に暮らす一員として小学生も引き続き参加できるそうです。

このような日頃の交流は、いざというときに大事な役割を担います。中野地区では高齢の方や避難が難しい方の災害時の支援体制づくりを、けやきの村と民生委員と地域の人々が一緒に進めているそうです。日頃のつながりが、誰もが安心して暮らせる地域づくりを支えています。